

2025 年 11 月 9 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒180 番（旧 233 番）

『いと高き神の』

聖書⇒ヨハネによる福音書 3 章 16 節（MM 姉）

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒20 番（旧 138 番）

『ひとりの御子をば』

聖書⇒創世記 1 章 2~5 節（KT 姉）

『地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 4 章 16~19 節

『わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。』

（祈り）

讃美歌
『善き力にわれ囲まれ』

《パン裂き》

聖書⇒出エジプト記 24 章 5~8 節 (KH 兄)

『彼はイスラエルの人々の若者を遣わし、焼き尽くす献げ物をささげさせ、更に和解の献げ物として主に雄牛をささげさせた。モーセは血の半分を取って鉢に入れて、残りの半分を祭壇に振りかけると、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らが、「わたしたちは主が語られたことをすべて行い、守ります」と言うと、モーセは血を取り、民に振りかけて言った。「見よ、これは主がこれらの言葉に基づいてあなたたちと結ばれた契約の血である。』』

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 26~28 節

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。』』

(式)

礼拝讃美歌⇒148 番 (旧 94 番曲)

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒フィレモンへの手紙 8~16、18、19、20 節 (KH 兄)

『それで、わたしは、あなたのなすべきことを、キリストの名によって遠慮なく命じてもよいのですが、むしろ愛に訴えてお願いします、年老いて、今はまた、キリスト・イエスの囚人となっている、このパウロが。監禁中にもうけたわたしの子オネシモのことで、頼みがあるのです。彼は、以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにもわたしにも役立つ者となっています。わたしの心であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。本当は、わたしのもとに引き止めて、福音のゆえに監禁されている間、あなたの代わりに仕えてもらってもよいと思ったのですが、あなたの承諾なしには何もしたくありません。それは、あなたのせつかくの善い行いが、強いられたかたちでなく、自発的になされるようにと思うからです。恐らく彼がしばらくあなたのもとから引き離されていたのは、あなたが彼をいつまでも自分のもとに置くためであったかもしれませんが。その場合、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです。オネシモは特にわたしにとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、一人の人間としても、主を信じる者としても、愛する兄弟であるはずです。

彼があなたに何か損害を与えたり、負債を負ったりしていたら、それはわたしの借りにしておいてください。

わたしパウロが自筆で書いています。わたしが自分で支払いましょう。あなたがあなた自身を、わたしに負っていることは、よいとしましょう。

そうです。兄弟よ、主によって、あなたから喜ばせてもらいたい。キリストによって、わたしの心を元気づけてください。』

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 4 章 9 節

『また、あなたがたの一人、忠実な愛する兄弟オネシモと一緒に行かせます。彼らは、こちらの事情をすべて知らせるでしょう。』

礼拝讃美歌⇒356 番 (KH 兄)

『イエスの愛にこたえ行く』

《建徳要旨》